

ず、一家は着物を燃やした灰を遺骨の代わりにした。

4人は福島に戻り、戦後40年の85年には自宅近くに供養のための地蔵を建てた。伊藤さんは90年以降20回超にわたり妹の遺骨収集などのためテニアンに通った。今年7月にも訪れ、遺骨発見の知らせを待ち続ける。

集団自決から81年。惨劇は今も脳裏に焼き付くが、父に恨みはない。「当時は捕虜になればひどいことをされ、殺されると考えられていた。父は娘に愛があったから殺した」と涙をためる。2000年に亡くなるまで、父は「あの日」についてほとんど語らなかった。

「その苦しみを知れば、国の偉い人も『こんなことは繰り返してはいけない』と思い、平和に向けた話し合いが進むのではないか」

拒否し続けている点なども問題視した。不信任の採決に先立ち、田久保氏を地方自治法違反の疑いで刑事告発することも正式決定。

県警伊東署は同日、告発状を受理した。

不信任決議では、田久保氏について「公人としての法令順守の精神や公益性の確保といった責務を軽視している」などと指摘。即刻辞職するよう求めた。本会議終了後、中島弘道議長は記者団に「市政を混乱させて、市民を不安に陥れた市長に対して一つのけじめがついた」と話した。

田久保氏は市議を経て、5月の市長選で初当選。疑惑発覚後の7月には、市長を辞職して出直し選挙に立候補する意向を表明した。しかし、その後に一転して辞意を撤回した。